The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	まえがき ： 「適正テスト」が始まり，ISO コミュニティ通訳認証の一翼を担う
Author(s)	林田，雅至
Citation	ISOコミュニティ通訳認証実績報告書. 2022, p. 1-2
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/87467
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

まえがき

―「適正テスト」が始まり，ISO コミュニティ通訳認証の一翼を担う―

大阪大学名誉教授

ISO コミュニティ通訳認証言語能力審査官

林田雅至

ISO コミュニティ通訳認証の一翼を担う「適正テスト」は 2018 年から関西 SDGs プラットホームの一環の事業で実施を始め, 2020 年度まで大阪大学 CO デザインセンターの SDGs に関する大阪大学実績として取り組んだ, 所謂言語の検定試験ではなく，言語の双方向運用能力をチェックする新機軸のチェック・テストである.

一方，CO デザインセンター：コミュニケーションデザイン科目については 2019-20 年度，授業評価の一環で，公益財団法人・旧大阪公衆衛生協会事務局長井戸武實氏の献身的な協力の下に，2018-2019 年度外部会場(「オカムラ」共創空間，株式会社オカムラ関西支社「Kizuki LABO」内)と同様に紙媒体によるアナログ実施を行った.

ところが，2020 年度になるとコロナ禍オンライン授業を強いられ,「適正テスト」もオンライン実施となったために，急遽問題用紙(PDF)及び解答用紙(Word 文書)の受講者への電子配布によって行うことになった．問題用紙提示(PPT による時限的自動送り)や解答用紙(Google Form による即時解答回収)と，本報告書編集責任者・印南敬介氏[1]の尽力によって一気に高度な電子化プロセスの進化を遂げた.

なお,「適正テスト」の結果 CEFR 基準で B2 に相当する 80%以上の正解率を得た受検者を合格とし，認証審査に必要な書類は下記の通りである.

1)「ISO13611_2014 コミュニティ通訳のためのガイドライン遵守調書」
2)「ISO13611_2014 コミュニティ通訳のためのガイドライン認証授与申請書」
3)「個人情報取り扱い同意書」

1)～3)の書類に必要事項を記入し，印刷の上署名（記名及び押印も可能），スキャンデータを作成.

４）学位証明書
５）通訳業務証明書（当該諸機関の証明書）
６）5)のスキャンデータ(PDF ファイル)を作成の上，1)～3)と合わせてメールで提出

【提出先】
『ISO13611：2014 コミュニティ通訳のためのガイドライン』認証授与
窓口担当者：大阪観光大学国際交流学部 教授　佐藤晶子

以上の手続きを経て，最終審査の上正式な認証となる.

2021 年 5 月 13 日には 8 名の初の認証式をリモート開催し，元大阪観光大学学長・伊藤鉄也(世界的な源氏物語研究者)[2]から認証書(デジタル版)をオンライン越しに授与していただいた.

今後，2024 年には現在のガイドラインレベル(推奨事項)から，本来の国際規格のレベル(要求事項)になり，従来の JIS(日本工業規格：2019 年に日本産業規格改め)と同等の扱いとなり，それまで，「適正テスト」の実施を進め，認証者も出すように鋭意尽力することが求められる．なお，今年度認証者は総数 12 名(英語：5 名，中国語：2 名，ポルトガル語：3 名，ロシア語：2 名)である.

本プロジェクト推進者一同一致団結して，大願成就を果たすべく，邁進したいと思う.
https://www.tourism.ac.jp/news/cat1/8110.html

---

[1] 印南敬介：双方向運用能力(スクライビング)：
https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/67895/?lang=0
https://bee.workmill.jp/event/overseas01.html
https://kokusaifes.com/kikaku/indoor/relay/

[2] 海外平安文学情報：https://genjiito.org/